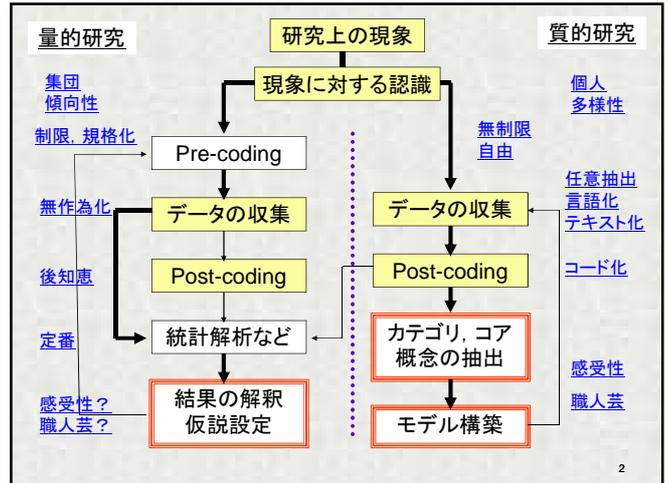


看護研究の進め方

高木 廣文
東邦大学看護学部

1



2

特定の現象の認識と研究設定

研究目的の設定ーリサーチ・クエスチョン
→研究方法をほぼ決定する

- ・ **質的**なリサーチ・クエスチョン：
研究のプロセス, 対象, 存在を決めるもの。
プロセス指向的なものがよい。予測ではない。

例) HIV/AIDSの人達はどのように、社会的な偏見の中で生活しているのか？

- ・ **量的**なリサーチ・クエスチョン：
仮説演繹的, 因果推論的。

例) ディケアセンターで看護師が指導することで、HIV/AIDSの人達のQOLが向上する。

3

現象の認識と研究方法

リサーチ・クエスチョンに対応する研究方法

- ・ **質的研究**：
研究対象者（情報提供者）の個人的経験、特定現象に関する多様性、個人の認識や経験についての哲学的な仮定など。
・ 社会構成主義, 象徴的相互作用論など
- ・ **量的研究**：
集団における傾向性：頻度, 分布の記述。仮説に基づく検証的研究など。
・ 実証主義, 構造主義（どちらかという）

4

質問紙作成とPre-coding

調査開始前の準備

- ・ **質的研究**：
インタビューガイド（半構造化面接）
・ 自由度を大きくしておく。
- ・ **量的研究**：
質問項目および選択肢の設定
・ 制限, 自由度は小さい。

5

対象選択とデータ収集

実際の調査の実施

- ・ **質的研究**：
・ 任意抽出（雪だるま式標本抽出など）
・ 主にインタビュー, 観察など
・ 目的に応じた標本の選択とデータ収集
- ・ **量的研究**：
・ 主に無作為抽出, 全数調査など
・ 質問紙調査など
・ 統計学の要請に対応

6

Post-coding について

- ・ **質的研究**：
 - ・ データ解釈の最も重要な部分
 - ・ テキストに基づくコード化
 - ・ **オープンコード化**など、実際には主要なカテゴリ、コア概念の抽出などと、連続的、再帰的な手続きになる。
- ・ **量的研究**：（ほとんど行わない）
 - ・ 「後知恵」と呼ばれ、あまり好まれないが、自由記載の回答などを整理する場合に使用される。

7

主要な解析／解釈と結果のまとめ

- ・ **質的研究**：
 - ・ カテゴリ、コア概念の抽出
 - ・ モデル構築（新たな理論の生成）
 - ・ 最も感受性、直観力、アブダクションなどが必要とされる。
- ・ **量的研究**：
 - ・ 統計解析と結果の解釈
 - ・ 統計学的有意性に基づく解釈、ただし記述的な解析では質的研究と同様に、感受性、直観力なども必要。

8

看護研究の進め方

1. 研究目的の設定
2. 研究計画書の作成
3. （調査）研究ための準備
4. （調査）研究の実施
5. 集めたデータの解析
6. 研究のまとめ、発表など

1. 研究目的の設定

何をやりたいのかはっきりさせる。
何のために研究をするのか？

まず、動機を明確にする。

動機を文字に書いてみる

動機を書いてみる

タイのスタディー・ツアーに参加したときに、タイのHIV/AIDSとともに生きる人々（People living with HIV/AIDS, PHA）とよばれる人々のグループ活動を行っているのを見た。一般の人々からの偏見や差別はないのだろうか。PHAグループの人々は、どのような想いを抱いて日常生活を送っているのだろうか。また、治療はどうしているのだろうか。看護師はどのようにPHAグループに関わっているのだろうか。

動機から研究目的へ

動機はまだ内容が曖昧であったり、実際に研究を行うには大きすぎたりする。



とりあえず実現可能と思われる
「研究目的」を書いてみる

研究目的

タイ王国のHIV/AIDSとともに生きる人々（PHA）は、どのように社会の偏見や差別を考えながらグループ活動を行い、それに対して看護師がどのように関わっているかを明らかにし、今後の日本でのPHAの人々への関わりを検討する上での資料とする。

研究目的に関するクエスチョン(1)

- ①タイ王国ではPHAの人々に対する社会的偏見や差別はあるのか。
- ②社会的偏見や差別があるとすればどの程度なのか。
- ③なぜPHAの人々はグループ活動をしているのか。
- ④PHAグループの活動の内容はどのようなものなのか。

研究目的に関するクエスチョン(2)

- ⑤PHAグループの人々は、普段はどのような生活をしているのか。
- ⑥PHAグループの人々は、HIVに感染したことについてどのように想っているのか。
- ⑦PHAグループに対する看護師の役割は何か。
- ⑧PHAグループに対して看護師はどのように思っているのか。

文献検索と既存資料の検討

- ・ 研究に関する疑問やこれまでどのようなことが行われてきたかという知識を得る

- ・ 図書館の利用
- ・ インターネットの利用
- ・ 専門家

文献の選び方

- ・ 一般書は避ける
- ・ 学会誌がよい
- ・ わからない場合にはレビューを読む
- ・ 看護学分野以外の雑誌も探す
- ・ 読んだらメモを取る

専門家や指導者と相談

- ・ 曖昧な質問ではなく具体的に
「HIV/AIDSの人たちの研究は、どうしたらよいのでしょうか」



「調査は半構造的面接でしたいのですがこの研究目的には合いますか」

2. 研究計画書の作成

実際の研究のための計画書を作成する

- ・研究目的をより現実的なものにする。
- ・研究で用いる用語などを明確に定義する。
- ・研究のための戦略と資源を検討する。

研究のための戦略と資源の検討

- ①研究方法をどのようなものにするか
- ②調査対象はどのような人にするか
- ③分析方法はどうするのか
- ④測定方法とそれに必要な道具はあるか
- ⑤研究経費はどのくらいで、調達できるのか
- ⑥誰が研究に協力、助言をしてくれるか
- ⑦調査の場は必要か、使用可能か
- ⑧研究期間はどのくらいか、期限はあるか
- ⑨既存資料にはどんなものがあるか

①研究方法をどのようなものにするか

- ・量的研究か質的研究か決めねばならない。
PHAについて一般的な傾向を知るために
質問紙を用いた調査にするのか、面接に
よって個々の人たちの想いを聴くのか。
→ **研究方法の決定**
- ・PHAだけの調査なのか、一般住民も調べる
のか。
- ・PHAグループを時間を追って追跡するよう
な方法がいいか。

②調査対象はどのような人にするか

- ・どんな調査対象が適切なのか。
- ・アクセスが可能なのか。
- ・どのようにすればアクセスできるか。
- ・外国での調査では適切な通訳を雇う必要。

調査対象の選択と調査方法の関係

- ・PHAグループのみの調査
- ・一般の住民の調査結果との比較
**ケース・コントロール研究、
ケース研究、コホート研究**
- ・インフォームド・コンセント

③分析方法をどうするのか

- ・質問紙調査：調査項目と回答の選択肢
使用できる統計学の方法は限定
- ・面接調査で得られるような言語情報データ
データ解釈の方法
**KJ法、グラウンデッド・セオリー・
アプローチ、解釈学的現象学アプローチ**

④測定方法とそれに必要な道具はあるか

- ・質問紙調査：調査票、筆記用具。
- ・実験・各種の器具、薬品など。
- ・計算機、ファイルボックスなど、測定
の実施とデータ整理に必要な道具をすべて
書き出すとよい。

⑤研究経費はどのくらいで、
調達できるか

- ・ 調査票の印刷費
- ・ 調査員の雇用費，対象者への謝礼，郵送費
- ・ 研究費を得る方法を考慮する。
- ・ 入手できる研究費の多寡によって，調査の規模も変化

⑥誰が調査に協力，助言をしてくれるか

- a) 調査に協力して研究する仲間は具体的に誰か
- b) 研究仲間のもっている資格や特殊技能は役立つか
- c) 専門的スキルをもった人を雇う必要がある場合，協力できる人はいるか
- d) 調査票の作成で，共同作業をしたり意見をもらえる人はいるか
- e) 専門的な知識について助言をくれる人はいるか

⑦調査の場は必要か，使用可能か

- ・ 質問紙調査の実施場所、調査票に記入してもらう場所、調査票の受け渡しの場
- ・ 面接のための場所
- ・ 郵送調査の場合，宛名書きや発送作業のスペース、返事が郵送されてきたときの保管場所

⑧研究期間はどのくらいか，期限はあるか

- ・ 研究に使える時間的な見通しを立てておくべきである。
- ・ 研究に必要な例数を集めることのできる期間がどのくらい必要か。
- ・ 研究計画から論文を書き発表する段階まで，研究全体にかかる期間を考える。
- ・ 科学研究費などの研究費をもらった場合，報告書の提出期限。
- ・ 研究結果を学会で発表する場合，その期日や申し込みにも期限がある。

⑨既存資料にはどんなものがあるか

- ・ 研究に参考になるような資料を集める。
- ・ 学会の学術雑誌に掲載されている文献（査読を受けた原著論文）がもっとも重要で，信頼性の高い資料である。
- ・ 各種の助成金による報告書，過去に同じ場所でされた調査資料や調査票など。

研究計画書の内容

1. 動機
2. 研究目的
 - ・ 大目標（最終的に行いたい目標）
 - ・ 個別目標（今回の実現可能な目的）
3. 戦略： 調査方法，測定用具，評価方法など
4. 資源： 協力者，専門家，予算，パソコンなど
5. 発表： どのようにまとめて報告するのか

インフォームド・コンセントと研究倫理

- ・ 文部科学省・厚生労働省：
「疫学研究に関する倫理指針」
- ・ 日本看護協会：
「看護研究における倫理指針」

- ・ データ管理と守秘義務

委員会で審査

- ・ 研究計画書の審査委員会
- ・ 研究倫理委員会の審査
- ・ 臨床倫理委員会の審査

・
・
・
(研究の実施?)

3. (調査)研究ための準備

実際に看護研究を行う前の準備すべきことは？

- ・ 研究の場： 病院などの関係者との事前
打ち合わせ, 対象者の選定等
- ・ 用具など： 質問紙の作成など
- ・ 共同研究者との打ち合わせ：
見解, 手技などの統一, など
- ・ データの解析方法の決定
- ・ 予算の確保

4. (調査)研究の実施

実際に看護研究を行うときの注意は？

- ・ 複数人で行う場合, 対象者からの質問など
に対する回答を統一する。
 - ・ 「マニュアル」の作成等
- ・ 自分の得たい情報を得るような誘導を行わ
ない。
- ・ データの管理と守秘義務
- ・ インフォームド・コンセント

5. 集めたデータの解析

収集したデータの分析：

集団に関するデータ ⇒ 統計学

ケース・スタディ ⇒ 主観データの
客観化



結果の一般化

6. 研究のまとめ, 発表など

研究のまとめ：

学術論文, 卒業論文, 院内発表など
研究の開始前にあらかじめ考えておく

- ・ 公にする場合には, 論文作成の一定の
ルールがある。